

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立平成小学校

1 学校教育目標

夢を抱き たくましく生きぬく 人づくりをめざして
— 知・徳・体の調和 —

2 本年度の重点化された具体的な目標

1目指す学校像
・(へ)平和でいじめのない・(い)いつでも夢・希望が持てる・(せ)全力でがんばる子がいる・(い)いっぱい感動がある
↓
「夢を語り合える 仲間づくり」
2目指す児童像
①目的をもって、すすんで学習する子 ②明るい挨拶ができ、思いやりのある子 ③健康・安全に気をつけ、元気に運動する子
3目指す教師像
①児童への愛情と教職への情熱をもち、児童に自ら範を示す教師 ②教職のプロとして確かな力量のある教師 ③バランス感覚をもち、豊かな人間力をめざす教師

3 自己評価結果

A:80%以上 B:60～79% C:59%以下

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
教育課程 学習指導	①学校が楽しい。	保護者の84%、児童の82%が肯定的な評価をしている。	A	・家庭学習の定着 宿題の質を見直し、児童が自ら選択して取り組める「自学(自主学習)」を積極的に取り入れたり、タブレット端末を活用した個別の復習課題を提示したりすることで、主体的に学べるように、課題の出し方を工夫する。 ・ICTの効果的活用
	②わかりやすい授業づくりに努めている。	保護者の79%、児童の86%、職員の86%が肯定的な評価をしている。	A	授業内での主体的・対話的な学びを深めるため、端末を活用した意見共有や共同編集の機会を意図的に設定する。 6年間を通した系統的なタブレット活用スキルの目標を学年ごとに明確化し、段階的に育成していく体制を整える。 ・個に応じた指導の充実
	③お子さんの学習状況を把握している。 ④家での宿題などの家庭学習を忘れずにしている。	保護者の83%、児童の77%が肯定的な評価をしている。	A	少人数指導や習熟度別の学習形態を工夫し、一人一人のつまずきに即したきめ細かな支援体制を強化する。
	⑤主体的・対話的な学び、タブレット端末の効果的な活用の推進等授業改善を意識した取組をしている。	職員の72%が肯定的な評価をしている。	B	
	⑥一人一人の学習状況を把握し、個に応じた指導を心がけている。	職員の74%が肯定的な評価をしている。	B	
生徒指導	⑦自分からあいさつができる。	△保護者の59%、児童の75%、職員の83%が肯定的な評価をしている。	B	生徒指導(かがやき6項目) 学校での様子が保護者に伝わるように、学校や各学年のお便りの中で、子どもたちのがんばりを写真等使って紹介していく。 ・あいさつ運動の活性化
	⑧だまってそうじができる。	△保護者の58%、児童の66%、職員の80%が肯定的な評価をしている。	B	あいさつや返事を頑張っている児童を紹介するなど、良い行いを広めていく。
	⑨時間を守ることができる。	保護者の69%、児童の68%、職員の77%が肯定的な評価をしている。	B	・清掃指導の徹底 「だまってそうじ」の意義を再確認し、教職員がモデル(範)を示すことで、環境を整える心の育成を図る。 ・生活リズムの確立
	⑩大きな声で返事ができる。	保護者の63%、児童の66%、職員の74%が肯定的な評価をしている。	B	時間を守る意識を高めるため、3分前着席や、見通しをもった行動を促す声掛けを継続する。
	⑪いつもありがとうと言える。	保護者の71%、児童の84%、職員の83%が肯定的な評価をしている。	A	
	⑫進んでよいことができる	保護者の63%、児童の68%、職員の77%が肯定的な評価をしている。	B	
特別支援教育	⑬子ども一人一人が大切にされ、良さが認められている。	保護者の74%が肯定的な評価をしている。	B	特別支援教育・教育相談 児童の安心感が高いが、組織的な対応の質をさらに高めていく。
	⑭先生は勉強の質問にいてねいに答えてくれる。	児童の85%が肯定的な評価をしている。	A	個性の理解と支援
	⑮一人一人の個性や特性の理解に努め、個に応じた励ましや支援の言葉を伝えて	職員の80%が肯定的な評価をしている。	A	・個々の特性に応じた具体的な支援内容を保護者と丁寧に共有し、学校と家庭での一貫した指導体制を築く。
健康・体力・安全	⑯学校は健康・食育・体力作りに取り組んでいる。	保護者の82%が肯定的な評価をしている	A	健康・体力作りの推進
	⑰ルールや約束を守って安全に過ごしている。	児童の80%が肯定的な評価をしている。	A	・運動への興味をもたせる行事や、食育を通じた健康意識の向上を継続的に行う。 例)縄跳び検定 リズム縄跳びだけでなく、長縄跳び(8の字跳びなど。)の回数をクラス対抗で競うなど。
	⑱児童に対し、安全面に係る指導や行事が適切に行われている。	職員の83%が肯定的な評価をしている。	A	
教育相談	⑲先生は悩みや相談を丁寧に聞いてくれる。	児童の82%が肯定的な評価をしている。	A	教育相談体制の深化 ・児童一人一人の悩みや困り感に寄り添えるよう、教育相談週間以外でも日常的なコミュニケーションの時間を確保したり、前向きな声かけができるような、教師のコミュニケーション能力を高める。
	⑳教育相談活動の充実が図られ、児童一人一人の悩みや困り感に寄り添った対応ができています。	職員の74%が肯定的な評価をしている。	B	
道徳教育	㉑友達に優しくしている。	児童の87%が肯定的な評価をしている。	A	優しさの心の育成 ・友達に優しく接する姿を価値付け、互いを認め合う仲間づくりを推進する。
	㉒いじめに対する指導やいじめ防止のための取組を行っている。	職員の80%が肯定的な評価をしている。	A	・学校全体で「いじめは絶対に許さない」という意識が高められる行事を行う。
保護者・地域住民との連携	㉓家庭・地域とが連携を図り、子どもたちの安全が確保されている。	保護者の63%が肯定的な評価をしている。	B	学校・保護者・地域との連携 ・安全確保の周知
	㉔家庭との連携を密にし、協力して指導支援にあたっている。	職員の80%が肯定的な評価をしている。	A	地域と連携した安全点検や登下校指導の様子を学校HPや便りで積極的に発信し、安心感を醸成する。
	㉕家庭でのコミュニケーションを大切にしている。	保護者の90%が肯定的な評価をしている。	A	・家庭での対話促進 学校での出来事を家の人に話したくなるよう、帰りの会でその日の「キラリと光った場面」を振り返る時間を設ける。
	㉖学校のことを家の人に話している。	児童の69%が肯定的な評価をしている。	B	

4 自己評価の結果の分析

教職員の丁寧な指導により「思いやり」や「学習への安心感」といった心の基盤は評価できる。今後は、児童の自主性を育む「当たり前のことを徹底する(凡事徹底)」活動や、学校の楽しさを家庭でも話したくなるような仕掛け作りが鍵となる。
教職員は非常に高い使命感をもち、わかりやすい授業や安全・いじめ防止などに尽力していると考えられる。一方で、タブレット端末を活用した新しい学びの推進や、児童の基本的な生活習慣(挨拶、清掃、時間管理など)の定着には、個人での指導の限界や難しさを感じている様子が見受けられる。
保護者は学校からの連絡をしっかりと確認し、家庭での対話や学習把握に非常に協力的である。また、子どもが楽しく通学していることへの安心感も強い。一方で、挨拶、清掃、返事といった「基本的な生活習慣」の定着度合いについては、保護者も明確な課題として認識している。

令和7年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立平成小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

夢を抱き たくましく生きぬく 人づくりをめざして ― 知・徳・体の調和 ―	学校関係者評価委員 (学校運営協議会委員) 宮本敦之 高橋雅和 石井 武 山賀修一 大嶋ひろ子 秋山静香 生田目香代子 岩本和子 大森麻由美 庭野隼輔
--	--

2 本年度の重点化された具体的な目標

1目指す学校像 ・(へ)平和でいじめのない・(い)いつでも夢・希望が持てる・(せ)全力でがんばる子がいる・(い)いっぱい感動がある ↓ 「夢を語り合える 仲間づくり」
2目指す児童像 ①目的をもって、すすんで学習する子 ②明るい挨拶ができ、思いやりのある子 ③健康・安全に気をつけ、元気に運動する子
3目指す教師像 ①児童への愛情と教職への情熱をもち、児童に自ら範を示す教師 ②教職のプロとして確かな力量のある教師 ③バランス感覚をもち、豊かな人間力をめざす教師

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等 A80%以上 B60～79% C59%以下 A:良い B:普通 C:悪い

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育課程 学習指導	①学校が楽しい。	保護者の84%、児童の82%が肯定的な評価をしている。	A	②授業への満足度は高いものの、自立的な学習姿勢に課題が見られる。	A	A
	②わかりやすい授業づくりに努めている。	保護者の79%、児童の86%、職員の86%が肯定的な評価をしている。	A	③家庭学習の定着 宿題の質を見直し、児童が自ら選択して取り組める「自学(自主学習)」を積極的に取り入れたり、タブレット端末を活用した個別の復習課題を提示したりすることで、主体的に学べるように、課題の出し方を工夫する。	A	A
	③お子さんの学習状況を把握している。	保護者の83%、児童の77%が肯定的な評価をしている。	A	⑤ICTの効果的活用 授業内での主体的・対話的な学びを深めるため、端末を活用した意見共有や共同編集の機会を意図的に設定する。	A	A
	④家での宿題などの家庭学習を忘れずにしている。	職員の72%が肯定的な評価をしている。	B	6年間を通した系統的なタブレット活用スキルの目標を学年ごとに明確化し、段階的に育成していく体制を整える。	A	A
	⑤主体的・対話的な学び、タブレット端末の効果的な活用の推進等授業改善を意識した取組をしている。			⑥個に応じた指導の充実 少人数指導や習熟度別の学習形態を工夫し、一人一人のつまずきに即したきめ細かな支援体制を強化する。	A	A
	⑥一人一人の学習状況を把握し、個に応じた指導を心がけている。	職員の74%が肯定的な評価をしている。	B			
学校関係者 による意見等	・タブレットが主体的に活用できるような宿題の強化をされると良い。 ・タブレット活用スキルを上げていかなければならない等、指導面での苦労を感じる。 ・低学年からタブレットにふれる時間を増やしてほしい。					
生徒指導 (かがやき6項目)	⑦自分からあいさつができる。	△保護者の59%、児童の75%、職員の83%が肯定的な評価をしている。	B	生徒指導(かがやき6項目) 保護者からの評価が低いのは、選択肢の中に「3どちらともいえない」があったためと考えられる。学校での様子が保護者に伝わるように、学校や各学年のお便りの中で、子どもたちのがんばりを写真等使って紹介していく。	A	A
	⑧だまってそうじができる。	△保護者の58%、児童の66%、職員の80%が肯定的な評価をしている。	B		A	A
	⑨時間を守ることができる。	保護者の69%、児童の68%、職員の77%が肯定的な評価をしている。	B	⑦⑩あいさつ運動の活性化 あいさつや返事を頑張っている児童を紹介するなど、良い行いを広めていく。	A	A
	⑩大きな声で返事ができる。	保護者の63%、児童の66%、職員の74%が肯定的な評価をしている。	B	⑧清掃指導の徹底 「だまってそうじ」の意義を再確認し、教職員がモデル(範)を示すことで、環境を整える心の育成を図る。	A	A
	⑪いつもありがとうございます。	保護者の71%、児童の84%、職員の83%が肯定的な評価をしている。	A	⑨生活リズムの確立 時間を守る意識を高めるため、3分前着席や、見通しをもった行動を促す声掛けを継続する。	A	A
	⑫進んでよいことができる	保護者の63%、児童の68%、職員の77%が肯定的な評価をしている。	B		A	A
学校関係者 による意見等	・大きな声で挨拶をする習慣が身に付くように、毎日の挨拶を徹底することを保護者にも伝えていくと良い。 ・個に応じた指導・・・今だからこそ、とても大切と感じる。それぞれの個性がひかる人間を育ててほしい。 ・学校でできていても、自宅ではできないという児童が多いと思う。学校で頑張っている日々の様子を保護者に伝わるようにしてほしい。 ・自分の子ども中心の意見になりますが、学校ではできている、やっているが、家ではできていないと感じる。他の保護者の方も家でできていないと感じているのではないか。私も含め、家庭の指導不足な気がする。					
特別支援教育	⑬子ども一人一人が大切にされ、良さが認められている。	保護者の74%が肯定的な評価をしている。	B	特別支援教育・教育相談 児童の安心感が高いが、組織的な対応の質をさらに高めていく。 ⑬⑭⑮個性の理解と支援 ・個々の特性に応じた具体的な支援内容を保護者と丁寧に共有し、学校と家庭での一貫した指導体制を築く。	A	A
	⑭先生は勉強の質問にいていねいに答えてくれる。	児童の85%が肯定的な評価をしている。	A		A	A
	⑮一人一人の個性や特性の理解に努め、個に応じた励ましや支援の言葉を伝えている。	職員の80%が肯定的な評価をしている。	A		A	A
学校関係者 による意見等	・全体として肯定的な評価が多く、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりが進んでいることがうかがえる。特に、教職員の丁寧な関わりは児童にもよく伝わっている。今後も、個々の特性に応じた支援内容や子どもの成長の様子について、保護者への丁寧な共有を進めることで、学校と家庭が連携した一貫した支援につながることを期待する。					

健康・体力・安全	⑯学校は健康・食育・体力作りに取り組んでいる。	保護者の82%が肯定的な評価をしている	A	健康・体力作りの推進 ⑩運動への興味をもたせる行事や、食育を通じた健康意識の向上を継続的に行う。 例)縄跳び検定 リズム縄跳びだけでなく、長縄跳び(8の字跳びなど、)の回数をクラス対抗で競うなど。	A	A
	⑰ルールや約束を守って安全に過ごしている。	児童の80%が肯定的な評価をしている。	A		A	A
	⑱児童に対し、安全面に係る指導や行事が適切に行われている。	職員の83%が肯定的な評価をしている。	A		A	A
学校関係者による意見等	・クラス全体で楽しみながら体力づくりにつながる仕組みがつくれると良い。 ・小学生の基礎体力はとても重要と考える。食育と合わせてこれからも苦手な子にも根気よく引き上げていってほしい。 ・様々な取組のなかで、苦手な子も頑張れるように工夫していただいていると思う。 ・縄跳びを通じて、学校・児童がこれほど本気で取り組んでいるのは、素晴らしいと感じる。					
教育相談	⑲先生は悩みや相談を丁寧に聞いてくれる。	児童の82%が肯定的な評価をしている。	A	教育相談体制の深化 ⑳児童一人一人の悩みや困り感に寄り添えるよう、教育相談週間以外でも日常的なコミュニケーションの時間を確保したり、前向きな声かけができるような、教師のコミュニケーション能力を高める。	A	A
	㉑教育相談活動の充実が図られ、児童一人一人の悩みや困り感に寄り添った対応ができています。	職員の74%が肯定的な評価をしている。	B		A	A
学校関係者による意見等	・児童一人一人の悩み、困りごと等を把握するのは(家庭事情もそれぞれなので)とても大変なことと感じる。 ・先生によって対応のかたよがりがあるように感じる。					
道徳教育	㉒友達に優しくしている。	児童の87%が肯定的な評価をしている。	A	優しさの心の育成 ㉒友達に優しく接する姿を価値付け、互いを認め合う仲間づくりを推進する。 ㉓学校全体で「いじめは絶対に許さない」という意識が高められる行事を行う。	A	A
	㉔いじめに対する指導やいじめ防止のための取組を行っている。	職員の80%が肯定的な評価をしている。	A		A	A
学校関係者による意見等	・児童同士のトラブルなどをていねいに対応してくれている。					
保護者・地域住民との連携	㉕家庭・地域とが連携を図り、子どもたちの安全が確保されている。	保護者の63%が肯定的な評価をしている。	B	学校・保護者・地域との連携 ㉕安全確保の周知 地域と連携した安全点検や登下校指導の様子を学校HPや便りで積極的に発信し、安心感を醸成する。 ㉖㉗家庭での対話促進 学校での出来事を家の人に話したくなるよう、帰りの会でその日の「キラリと光った場面」を振り返る時間を設ける。	A	A
	㉖家庭との連携を密にし、協力して指導支援にあたっている。	職員の80%が肯定的な評価をしている。	A		A	A
	㉗家庭でのコミュニケーションを大切にしている。	保護者の90%が肯定的な評価をしている。	A		A	A
	㉘学校のことを家の人に話している。	児童の69%が肯定的な評価をしている。	B		A	A
学校関係者による意見等	・中学生の自転車通学の生徒と小学生の徒歩の子たちの安全面の強化をした方が良いのではないかと。 ・児童によっては、学校のことを全く話さない児童もいるため、学校の様子がわかるシステムをつくってほしい。 ・地域との連携は薄く感じる。時代もあるのでしかたがないと思う。					

4 次期の重点目標と改善のための方策

1【生徒指導】基本的生活習慣(凡事徹底)の定着 三者のアンケートで最も課題として一致したのが、挨拶、返事、清掃、時間管理といった基本的な生活習慣である。 ○頑張りの可視化 挨拶や返事を頑張っている児童(かがやき6項目の実践者)の様子を、学校便りや学年便りで写真等を用いて積極的に紹介するとともに、計画委員など高学年児童発信で良い行いを広めていく。そのために教職員自らが範を示せるよう、意識を高める。 2【学習指導】ICTの効果的活用と「個に応じた」主体的な学びの推進 教職員が最も課題を感じているのが、タブレット端末を活用した新しい学びへの対応と、一人一人に応じた指導である。 ○ICT活用の系統的指導 6年間を通した系統的なタブレット活用スキルの目標を学年ごとに明確化し、段階的に育成する体制を整える。 ○きめ細かな支援体制 少人数指導や習熟度別の学習形態を工夫し、一人一人のつまずきに即した支援体制を強化できるように日課表を工夫する。 特に高学年算数科では算数の時間を統一し、学校サポート教員を活用し、習熟度別学習ができるように体制を整える。 3【連携】安心・安全の「見える化」と、家庭での対話の促進 学校への満足度は高いものの、学校での出来事や安全対策の様子が、家庭や地域に十分に伝わっていないという課題がある。 ○安全対策の積極的な発信: 地域と連携した安全点検や登下校指導の様子を学校便り等で積極的に発信し、保護者の安心感を醸成する。
--